

# 1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

わたしは小学生のころから眼鏡めがねをかけているが、中学校に入ってから近眼の度がどんどん進んで、眼鏡を毎年のようにかけかえた時期がある。その時の感じを今でもよく記憶きわくしているが、初めて新しい眼鏡にかけかえた時、今までは、ひとかたまりにぼんやりとしか見えなかった。① 樹木が、一枚一枚の葉まではっきりした輪かくをもつて見えるのにびっくりした。

① 言葉を学ぶということは、新しい眼鏡にかけかえるのと同じようなところがある。庭先に咲き乱れる花を見ても、その花なり木なりを表す言葉、すなわち、花の名、木の名を一つも知らない、ただ、ぼんやりと「きれいだな。」という印象を持つにすぎない。コブシ・ヤマブキ・ツツジ・サツキと、一つ一つの花の名、木の名を知っていけば、一つ一つがはっきりし、それぞれに親しみがもてるようになる。

\* 高崎山たかさきやまのサルには全部名前がついている。わたしたちにはどのサルも同じような顔に見えるが、飼育者にとつては、一匹いっぴきとして同じ顔のサルはいない。 ※、アラビアやアフリカの草原で羊を追っている人たちは、何百頭、何千頭という羊に全部名前をつけていて、一頭いなくなっ

20

15

10

5

ても、すぐ気づくという。信じられないような話であるが、これは、名前をつけることによって一頭一頭見分けることができるようにしてあるからである。

わたしにも ② こういう経験がある。わたしと同じくトカゲと言っていたものに二種類あって、体につやがあり尾おの短いのがトカゲで、体につやがなく尾の長いのはカナヘビだということを学んだのはつい最近のことである。見るからに気味の悪い生き物なので、みかけてもなるべく見ないふりをするくらいトカゲには ③ カンシンがなかったが、カナヘビという言葉を知ってからは、ひなたにその ④ スガタを見つけると、近づいていってながめるようになった。そして、これはトカゲだ、いやカナヘビだと、今まで一つでしかなかったものが二つに見えだしたのである。言葉を覚えると、今まで見えなかったものが見えるようになるのである。世界が開けるといってもいい。現実世界にはいろいろな物が ⑤ 存在する。しかし、それを表す言葉を知らない、その存在に気づかないことがある。言葉を覚えるということは、現実世界をしかと見定める強力な手段なのである。

〈柴田武「言葉を学ぶ」より〉  
(注) 高崎山たかさきやま 大分県おおいちにある山。野生のニホンザルが

生息している。

35

30

25

(1) — 線(A)～(D)のカタカナは漢字で、漢字は読み方をひらがなで書いて答えなさい。

2点×4	
(C)	(A)
(D)	(B)

(2) ※ に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば      イ また  
ウ しかし      エ または

2点

(3) — 線①「言葉を学ぶ」ということは、新しい眼鏡にかけかえるのと同じようなところがある」とありますが、筆者は、「言葉を学ぶ」ということと「新しい眼鏡にかけかえる」ということのどこを、同じようであると感じているのですか。「ところ」に続く形で、ここよりあとの本文中から二十字で書きぬいて答えなさい。

10点


ところ

(4) 高崎山のサルの飼育者とアラビアやアフリカの草原で羊を追っている人の話題は、どんなことを述べるために用いられていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア それらの人々は、「わたしたち」に比べて、動物に深い愛情を注いでいるということ。  
 イ それらの人々は、観察力がすぐれているので、動物の個性を的確に見分けられるということ。  
 ウ それらの人々は、動物に名前をつけることによって、個々の動物を見分けているということ。  
 エ それらの人々は、いつも動物と接しているので、おのずと動物の名前を覚えてしまうということ。

8点

(5) — 線②「こういう経験」とありますが、筆者の経験をまとめた次の文の [ ] に入る最も適切なことばを、それぞれ本文中から書きぬいて答えなさい。

〔 ① と ② 〕 という二つの言葉を区別して覚えることによって、今まで同じ一つのものだと思っていたものが、二つのちがったものとして見えだしたという経験。〕

5点×2  
(順不同)

①	
②	

(6) 本文の筆者が最も強く述べようとしていることを次のようにまとめました。

□に入る最も適切なことばを、本文中から十七字で書きぬいて答えなさい。

〈物を表す言葉を知らないこと、物があってもその存在に気づかないことがある。したがって、言葉を覚える

ということは、□であると言える。〉

10点


2

次のそれぞれのことばを漢字に直しなさい。なお、送り仮名のあるものは、それも合わせて書きなさい。

(1) ただちに

(2) さいわい

(3) こまかい

2点×3

(1)
(2)
(3)

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《小学校六年生の平田秀一は、夏休みに家出をし、ある農家の世話になっています。その農家の老人は、

孫娘の夏代とともに過ごしており、夏代は、最近盲腸の手術を受け、退院して家に帰ったばかりです。》

夏代が風呂場へ入ったのを①しおに、秀一は老人を庭に連れていった。老人はしきりに風呂場の方ばかり気にしていららしていた。

②何だ。用なら早く言え

「うん。おれ、ここにきてから十日ばかりたつし、その間夏代ちゃんときあって、いろいろ考えてみたんだけど……。夏代ちゃんのところへ、ひとりも友達が見舞いにこなかったな」

「それが、どうした」

「そんなのって、ずいぶんへんてこなことなんだぜ。夏代ちゃんだって、さびしそうだったぜ」

「そんなことはない。あれは友達づきあいが好きじゃないんだ」

「そうかなあ。もし、そうだったら、おれみたいに、ふらっと迷いこんだのなら犬みたいなやつと、つきあうかな？……おれも友達がいらないんだ。友達とつきあうのが

いやだからじゃないぜ。はじめは友達もたくさんいたけど、おふくろがだれだれは勉強ができないから、もっと勉強のできる子とつきあえ、なんて言って、友達を差別したり、しつこくいろんなことを聞いたりするもんだから、みんな寄りつかなくなっちゃったんだ。それに友達が遊びにくると、おふくろが先に出て行って、自分の気に入らない友達だと、秀一は勉強ですからって追っばらっちゃうんだ。……だから、今のおれに友だちがいるといったら、夏代ちゃんしかないんだぜ」

老人は何も言わなかった。③ 一つのまにか、くいいるように秀一の顔を見て、話を聞いていた。

「うちのおふくろはおれを兄貴達みたいな優等生にしようと思って、そうしたんだ。あげくのはてに、おまえはだめだ、兄弟のくずだ、家出も満足にできないほどのき悪いやつだなんて言われてみな。おれだってそれじゃあ……って気になるさ。夏代ちゃんだって同じだと思っうんだ。おじいさんは夏代ちゃんを、少し大事にしすぎているんじゃないのか？」

「ふんー！ えらそうな口をきくな。おまえだって知っている通り、夏代には畑仕事もさせるし、炊事すいじもさせるし、わしはわしなりにきびしくしているつもりだ……」

(A)

20

25

30

35

「そうか……。秀一みたいに家出なんかされちゃたまらんな。……だけどな、そう言いながら、家出してきたがきをこうやって家においておくというのも、なんとなく筋が通らないような気もするな」

「ちえっ！ おれは④ そんなところまで反省してくれなんて、たのまなかったぞ」

「そうそうおまえに都合のよいことばかりというわけにいくものか！」

「そんなこというと、おじいさんが診療所しんりょうじょの入口のところ、夏代ちゃんと同級生を追っばらったなんて、夏代ちゃんにうそついちゃうぞ！」

「ば、ばか！」

(B) 手おけの湯をあげるらしい音がしていた。

秀一はそれを見て、① が実は② と同じようなことをしていたのではないかと思った。そうでなければ、老人がこんなふうなわけがない。老人は、火のついたタバコをそのまま耳にはさもうとして、あわてて手でたたき落としたのである。果たして、老人は声をひそめて、秀一をおどした。

⑤ おまえ、見ていたな！ いいか、余計なこと言ったら、おまえが家出少年だから、すぐ保護するように派出所につき出してやるからな。……そうさ、できるさ。

40

45

50

55

60

……そうしてやれるさ」

(C)

「心配するなよ。そんなこと言わないよ」

(D) 秀一もほっとした。

⑥ ふふふ、これで、当分この家にいられるな――

そう思う反面、何か夏代を手ひどくうらぎっているような気がした。秀一は老人がそれほどまでにして夏代を友達から遠ざけようとしている理由を知りたいと思った。

〈山中恒「ぼくがぼくであること」より〉

(1) ――線①「しお」の意味を、あとから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 理由
- イ さかい目
- ウ 合図
- エ きっかけ

2点

(2) (A)～(D)に入ることはとして最も適切なものを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア 老人はほっとしたように、ため息をついた。
- イ 老人はまるで自分に言い聞かせるように言った。
- ウ そういう老人の声は、あまり元気がなかった。
- エ 老人はひどくうらたえて風呂場の方へ聞き耳をたてた。

4点  
(完答)

A
B
C
D

(3) 「秀一」は、家出をして老人の家に来た自分を、どんなものたにたえていますか。本文中から十二文字で書きぬいて答えなさい。

6点


(4) ――線③「いつのまにか、くいているように秀一の顔を見て、話を聞いていた」という部分からは、「老人」のどんな様子が読み取れますか。次から最も適切と考えられるものを選び、記号で答えなさい。

- ア 秀一のなれなれしい態度に腹を立てている様子。
- イ 秀一の話真剣に受け止めようとしている様子。
- ウ 悲しい思いをしてきた秀一に同情している様子。
- エ 秀一の話が信じられず、秀一を疑っている様子。

4点

(5) ――線④「そんなところ」が指している内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 夏代を少し大事にしすぎていること。
- イ 夏代に畑仕事や炊事をさせていること。
- ウ 夏代から友達をうばってしまったこと。
- エ 家出して来た秀一を預かっていること。

4点

(6) ・に入る最も適切なことばを、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 夏代の友達    イ 秀一の兄    ウ 夏代  
 エ 夏代の祖父    オ 秀一の母    カ 秀一

4点×2

①
②

(7) —線⑤「おまえ、見ていたな」とありますが、

「老人」は、「秀一」にどんな場面を見られたと  
 いるのですか。「同級生」ということばを必ず用いて、  
 「老人が場面」という形で、二十五字以内（句読点  
 も字数に数えます）で書いて答えなさい。

10点

		老	
		人	
		が	
	場		
	面		

(8) —線⑥「ふふふ、これで、当分この家にいられる

な」と「秀一」が思ったのはなぜですか。その理由と  
 して最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。  
 ア 老人と親しくなることができたから。  
 イ 老人の弱みをにぎることができたから。  
 ウ 夏代の友達として老人に認められたから。

エ 家出したわけを老人に理解してもらえたから。

(9) —線②「『何だ。用なら早く言え』とありますが、

「秀一」が「老人」に最も言いたかった用件は何であ  
 ると考えられますか。次から最も適切なものを選び、  
 記号で答えなさい。

ア 夏代とともに生活しているうちに、次第に夏代に  
 好意を持ってきたということ。

イ 自分は母親に冷たくされ、きずついたので、当分  
 家に帰るつもりはないということ。

ウ 老人が夏代を大事にしすぎているために、夏代に  
 は一人も友達がいないのではないかとということ。

エ 自分にはたよれる人が一人もいないので、老人の  
 ところでもうしばらく面倒めんどうを見てほしいということ。

4点

(これで問題は終わりです)